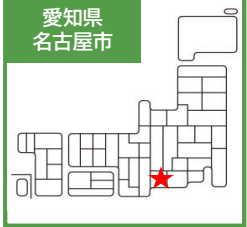


障害者、生活困窮者、ひきこもり、刑務所出所者等の多様な者で、農福連携×都市農業による米の付加価値向上を行う。また、ユニバーサル農園の開設により、多様な人材が参加・交流できる場を創出。

福祉事業所

愛知県
名古屋市



基本情報

設立:H24年 / 農福連携取組開始:H28年
取得認証等:認定農業者(R7)、農山漁村振興交付金(農福連携対策)(R4)
主な選定表彰:R4年度名古屋市食育イノベーション大賞優秀賞

概要

主力商品
(農作物)米、白菜、サツマイモ
(加工品)一味唐辛子

特徴的な取組
環境保全型農業、自然栽培、特別栽培農産物、スマート農業、ユニバーサル農園

体制図

株式会社ウィンパートナーズ

- ぽかぽかケアサポート (訪問・居宅)
- ぽかぽかワークス (就労B)
 - ・ぽかぽかファーム
 - ・ぽかぽか自然農園元中野町 (市民農園)
 - ・子ども未来基地 (ユニバーサル農園)

住所:愛知県名古屋市中川区荒子5-165
TEL:052-398-6320
Mail:kudo@win-p.com
URL:https://www.win-p.com/

受け入れている者	
身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	○

きっかけ

H28年
内職や施設外就労メインの事業所から、県の農福連携セミナー参加をきっかけに農業に参入。循環型農業と農福連携に取り組むほか、子ども参加型体験などを展開。

人を耕す

- 障害者だけでなく、生活困窮者やひきこもり20名で取り組む。刑務所出所者も5名受け入れ。
- 農作業マニュアルや工賃規定等を整備することで作業効率を高め、工賃とモチベーションが向上する仕組みを構築。また、スパイダーモアや刈払い機などの作業を障害者が行える環境を整備し、作業効率をさらに向上させた。
- 農作業を通じて、地元の信頼を獲得し、農業土木委員等で水回りを担う者を輩出。

取組

地域を耕す

- 生産が減少している愛知県の伝統野菜「野崎白菜」の生産・販売を行い、普及に寄与。
- 認定農業者、JAの正組合員、地域計画の担い手として、荒廃農地14,588㎡を開墾・再生し、農地面積を9haまで拡大。
- 地域のお祭りや防災訓練イベントへの参加、自然栽培の農業体験イベントの実施などを通じ、地域住民や学生ボランティア、行政、企業・団体など地域の交流・連携の場を創出。

未来を耕す

- 都市部での循環型農業の拡大を目指し、アイガモロボを活用した米作りを実施。子どもがスマート農業技術に触れることで、農業の価値観の変革も目論む。
- JAなごや、中川区社会福祉協議会、地元企業・飲食店等と連携し、稲作の農業体験「みんなで未来をつくろ米！プロジェクト」を実施し、都市農業の保全、地域活性化に寄与。

成果

平均工賃月額	交流人口	売上高	農地面積
11,837円(R2) → 21,367円(R6)	165人(R3) → 3,513人(R6)	190万円(R2) → 1,625万円(R6)	2ha(R2) → 9ha(R6)

- 1名が一般就労し、生活困窮者2名が事業所の職員として活躍。その姿を見て、他の障害者も一般就労を目指して訓練するなどの好循環を生む。
- ユニバーサル農園を開設し、従来の農業にとらわれず、間引き菜をその場で食べる、除草しながらおいしい雑草を探すなど自由に遊び心のある農体験を提供。多世代かつ障害者、ひきこもり状態の者、生活困窮者など多様な人が参加し、交流できる場を創出。
- 農福連携×都市農業というブランディングで成功し、米の付加価値向上を果たす。現在は、結婚式の両親贈呈品(体重米)としても全国で販売。